



特区を行く

①

城下町の兵庫県篠山市で、築100年超を含む古民家4棟がホテル「NIPPONIA（ニッポニア）」に生まれ変わった。フロントがあるのは1棟だけ。最も遠い別棟は約2キロ離れ、チェックイン後、徒歩や送迎車で移動する。街全体を一つのホテルとして楽しんでもらう試みだ。

国家戦略特区の事業として、旅館業法が求めるホテル・旅館へのフロント設置義務が緩和さ

明かりがとる古民家を改装したホテル

（兵庫県篠山市） 写真 山本博文

街全体が丸ごとホテル

れた。宿泊客に専用の携帯電話を渡し要望に24時間対応する。

食事は地元食材を使った創作フレンチを提供し、標準プラン（1泊2食）で1人3万～4万円程度。昨年10月の開業以降、予約がひっきりなしだ。宿泊客は「不便は感じない。古民家に泊まれて特別な思い出になった」（30代男性）と振り返る。

事業を主導した一般社団法人ノオト（篠山市）の金野幸雄代表理事によると、昭和初期以前に建てられ、歴史的な価値がある古民家は全国に約150万棟。「そのうち2割程度をつまく活用して残したい」と話す。

（神戸支社 下前俊輔）